

【天国への手紙

2022年12月17日放送分】

最後の贈り物

ラジオネーム：さちこ

あなたが旅立ったのは、粉雪が舞う朝でした。人が行き交う音やし話がしていたのかもしれませんが、静かな、静かな朝でした。いや、「あなた、みんなが集まってくれましたよ。みんないますよ。あなた、聞こえますか?」。いつ言い続けた私の声しか耳に入っていなかったのかもしれませんが。目をあけてほしい、と必死でしたから。でも、あなたは目をあけることなく逝ってしまった。病室の窓が結露して、一筋の線となって流れていきました。

あなたが生まれ育ったこの町が珍しくうっすら雪化粧して、それはきれいな朝だったあ。写真を撮るのが好きなあなたのことだから、元気があったら窓を開けて、何枚も写真を撮っていたかしら。あなたにも見てほしかった。

朝早かったのに、息子や孫も駆けつけてくれて、画の手を握ってくれて、、、あなたは幸せ者ね。私の時は、こんな風に家族に囲まれて逝けるのかしら?。今となってはあなたに嫉妬してしまいたくなるわ。こんな風に思えるまで、1年かかれました。

いつも一緒だったあなたが側にいないことに全然慣れなくて、涙が流れるばかり。特に、「ロービーを飲むときは。息子たちからは、「泣いてはがらいるよ、お父さんが心配で天国に行けないよ」と何回も言われました。

わかっているのよ。でもね、できなかった。不思議よね、一緒にいてもけんかして口をきかない日も何度もあった。それでも、気まずい時間が続くと、必ずあなたが挽きたてのロービーを淹れて、「一緒にどしどし」を持ってきてくれた。バツが悪くしている私のことを見て、「きみは悪くないもんね」とまるごと子どもをあやすように言ってくれた。私の勝ち。そう思っていたけど、完全にあなたが上手だったのよね。あなたに甘えてばかりの私でした。

あなた、今年も雪が降りましたよ。雪を見ると、あなたを見送ったあの日を思い出す。でも、もう泣きません。あの日の雪景色はあなたが贈ってくれた「最後の贈り物」だったと思えるようになったから。そしですねねっ。

あなたと暮らせて、本当に幸せでした。ありがとう。これからあなたと並んで座っていたソファでロービーを飲むから、あなたもそしで一緒に付き合ってくださいね。お願いよ。

リクエスト曲

＜ めざめ

／

来生たかお

＞

＜ 4分08秒